



札幌地区
宣司評
だより

TO

と

MO

も

NI

に

第25号

発行日：2006年12月8日

●発行責任者：札幌地区長 近藤 光彦 ●発行所：札幌地区宣教司牧評議会／札幌市中央区北1条東6丁目

2006年度 札幌地区使徒職大会開催



今年度の札幌地区使徒職大会が、「宣教共同体」をテーマに、10月1日（日）藤学園講堂で800余名の信徒（修道者含む）を集めて開催されました。はじめに、円山教会主任司祭のエミール・デュマス神父による「新しいぶどう酒 新しい革袋」と題する講演があり、力強く希望あふれるメッセージに参加者は思いを新たにしました。引き続き、地主司教と12名の司祭、前日から宿泊研修を行っていた侍者34名が入場し、司教司式のミサが執り行われました。当番の月寒教会の皆さんの奉仕とスカウトの協力でスムーズな運営が図られました。

また、ロビーには、小教区の子供たちの絵画展が開かれ、力作ぞろいに多くの人が見入っていました。

エミール・デュマス神父講話 「新しいぶどう酒 新しい革袋」

今日は10月1日ですね。10月は、私にとって、とてもいい月です。いい思い出がいっぱいあります。10月は秋。秋と言えば紅葉。京都嵐山の紅葉は素晴らしい。

でも、私の故郷、マサチューセッツの紅葉は格別です。黄、赤、オレンジの紅葉は信じられないほど美しい。それは、神様の作品。私たちは、神様の美術館の中にいる。世界中が神様の美術館。10月は神様の存在を強く感じます。

自然の美しさだけではなく、10月は私の大好きな聖人の月でもあります。小さきイエスのテレジア、アシジのフランシスコ、土曜日はロザリオの聖母。そして、10月は、私の母の命日と祖父の誕生日があります。10月は私にとって素晴らしい月です。

今月はロザリオの月。皆さん、お願いがあります。今日から毎日、ロザリオ一連を、これから任命され

る新しい札幌教区の教区長のために祈ってください。何時、誰が任命されるかわかりませんが、毎日、聖霊に導かれて、北海道の共同体の司牧のために、素晴らしい方が任命されるよう心を合わせて祈りましょう。いいですか。（全員拍手）

祈りの力は素晴らしいよ。

新しいぶどう酒、新しい革袋

イエス様は、よくぶどうの木の話をしています。ヨハネ福音書の最後の晩餐の場面、イエスはパンをとって、感謝して配った。そして言った。「私は、まことのぶどうの木である。私の父は、裁断者である。実を結ぶものは、もっと結ぶように父が刈り取る。」

今の教会—札幌、日本、全世界で今、この時、裁断者である神様は枝を切っている。豊かな実を結ぶ

ために。だから、今はつらくてもいいじゃないか。

福音書には同じように書かれているが、どうして新しいぶどう酒を新しい革袋に入れるのか。イエス様は、「私は全てを新しくする。」と仰った。イエス様が私たちを新しくする。洗礼の時に蒔かれた信仰の種は新しいぶどう酒、革袋は私たちの心。

新しくなるためには、私たちの欲望、感情、いろいろな思いとたたかわなければならない。平々凡々とイエス様に任せていては、新しくなることはできない。洗礼を受けて、あとは神様にお任せで何もしないのは困る。私たちがイエス様と協力しなければならない。だから、新しいぶどう酒、新しい革袋は素晴らしい言葉である。

新しい革袋は私たち、あるいは今の社会。目的は、新しいぶどう酒（神様）を周りの社会のために活かす。周りの社会を新しくする。自分の教会を新しくするのはなく、周りの社会を新しくする。これは大切なことです。

福音 宣教 共同体

共同体にはいろいろ違いがあると思う。一致しているものでなくてもいい。共とはみんながイエス様のもとに動くこと。

宣教。皆さんは、毎日、家庭で、職場で、思い・言葉・行いによって宣教している。もし、私たちがイエス様の弟子であるならば、一番大切なものは福音。喜びと希望、幸せになるもの。福音は、本に書かれたものではない。私たちが宣べ伝えるものは、福音・希望。

皆さん、信仰の喜びはどこにありますか。福音の喜びです。札幌地区の全てのキリスト者の兄弟・姉妹が信仰の喜びを深く悟って、それを通して毎日生きるならば、札幌ドームも狭いくらい信者が増えるのではないのでしょうか。でも、宣教の目的は、教会

の信者の数を増やすことではありません。教会の名簿が増えていくこと、それはそれでいいことですが、宣教というものは、希望・喜びを伝えること。洗礼までいかないかもしれないけど、少しでも生活の中の人間関係、親子、夫婦、その中に福音という希望を入れること。共同体、宣教共同体、福音宣教共同体。素晴らしい恵みです。

マルコ福音書の最終章、「全世界に行って、全ての人に福音を宣べ伝えよ。」

イエス様は、「行け。」と言う。「集まれ。」ではない。「会議をしろ。」でもない。私たちの務めは社会に行って、社会の中で、思い・言葉・行い・全てによって社会を新しくすることです。

私たちの信仰生活と日常生活、信仰生活と家庭生活、信仰生活と仕事は密接に繋がっている。しかし、残念ながら現実には区別している。日曜日のミサが終わり、家に帰って、これで1週間の信仰の務めは終了ではだめ。

たとえば、日曜日のミサに与ることは、ガソリンスタンドで満タンにすること。恵みで心を満たして、喜びと希望を持って社会へ向かう。イエス様は言う「行け。」と。

洗礼は素晴らしい。洗礼は恵み、しるし。洗礼の意味とは「私は罪人です。洗礼の水によって私を清めてください。」ということです。新しい人になることです。イエス様は全てを新しくします。素晴らしい恵みです。

私の仕事は司祭です。この世で一番素晴らしい仕事。とくに、人生の終わりを迎つつある人の洗礼はうれしい。洗礼を授けることによって、これまでの罪が全て赦され、清い心になって神の国に行く。この世の中にこれほど素晴らしい仕事はありません。



ん。司祭以外でも、緊急の場合は洗礼を授けられます。

これほどの、素晴らしいプレゼントは、どんなデパートにも売っていません。いくらお金を出しても買えません。それは神様が行くこと。共同体の美りです。

私は、司祭叙階によって、自分の感情・欲望・利己心が消え去ったわけではない。むしろ、もっと厳しくなった。聖職者だから大丈夫だろうとは言わないでほしい。皆さん、自分のために祈ってほしいでしょう。司祭も自分のために祈ってほしいのです。お互いに祈ることは、共同体の祈りです。

北海道のカトリック教会の歴史

日本のカトリック信者は少ないけど、韓国はすごい。ソウル教区は司祭は1千人。毎年30人くらい叙階される。日本では100年かかる。どうして日本と韓国は違うのか。

日本と他の国比べてはいけない。日本もひとつの革袋。国の歴史と風土が違う。イエス様の教えを日本という革袋に入れるのは時間がかかる。

北海道のカトリック教会の歴史は、1859年函館元町教会から。まだ150年くらい。主に外国の宣教師が拓いた。最初は、パリ外国宣教会が中心。皆さん、パリ外国宣教会のためにロザリオを唱えましょう。パリ外国宣教会は、北海道のカトリック教会の恩人です。恩人のために祈りましょう。

これからですよ、教会の歴史は。信教の自由が憲法で保障されてから日も浅く、これから教会が発展します。

各小教区は、北海道の教会の歴史を学ぶべきです。昔の兄弟姉妹の体験を知るべきです。交通機関もなく、厳しい環境の下、信仰を育ててきた。私たちは今、便利になって「忙しい。忙しい。」と言っている。昔の信者の生活を振り返ってみると力になります。

今の北海道には565万の人口のうち、カトリック信徒は1万8千人。忘れないでください。私たちは人数は少ないけど、周りの社会、日本の革袋です。

イエス様は「2人、3人集まるところに、私はともにいる。」と言いました。大きな慰めの言葉です。AAは世界中で行われていますが、始まりはマサチューセッツの2人の男性です。「お互いに酒を飲まないように励まし合おう。」と始まり、この2人のおかげで、世界中で多くの人が酒を飲まないでい

られるのです。

神様の働きは不思議です。あまり人数にとらわれないように。

明けの星 暗い所で 輝いて

暗い所とは、自分の家庭かもしれない。職場かもしれない。周りの社会かもしれない。聖テレジアの日記を読むと、今の言葉で言えば聖テレジアは心の病気だったかもしれない。彼女の救いはカルメルの姉妹たち。ベッドの回りに集まり、ロザリオを唱えてくれた。

暗い所～たとえば病気・絶望。キリスト者にとって100%善が勝つ。100%善が悪に勝つ。ニュースを見ると悪が強くなっているように見える。しかし、私は断言する。神は勝つ。親の皆さん、おじいさん、おばあさん。自分の子供・孫をマリア様の手に委ねてください。マリア様が必ず守ってくださいます。遠くにいてもマリア様が守ってくれるから、ロザリオを祈ってマリア様に頼みましょう。マリア様は必ず勝ちます。

私たちは目を開けているものですよ。希望を失うわけではない。そりゃ難しいことは難しい。時々弱く



なる。時々バテる。何回倒れても、必ず神様は私たちに立ち上がる力を与えてくださる。だから、立ち上げられる。あきらめないで。

カトリックとは普遍的ということ。私たちは普遍的な共同体の一員です。ミサを捧げる時、アジア、南米、アフリカ、ヨーロッパ、アメリカ、世界中で同じように兄弟姉妹がミサを捧げている。

世界の青年の集まりに、各小教区は一人の若者を選んで行かせてはどうですか。国際的な交流をもっと行い、自分の足で、自分の新しいぶどう酒を新しい革袋“日本”に。

私は、1967年に日本に来た。北海道を、あちこち回った。皆さんは気づかないかもしれないけど、私は聖堂に入るとすぐわかった。ここの教会の主任司祭は、ドイツ人だ。イタリア人だ。フランス人だ。

海外の宣教師は、自分が小さい頃学んだ教会を持ってきて種を蒔いていく。日本の革袋にヨーロッパの教会は合わないことがある。あたりまえのこと。

京都教区の新しい取り組みは注目する必要がある。他所の小教区をみて、自分の小教区を批判的にみて、新しい福音宣教共同体をつくる。数年間で成果が出るものではない。聖霊の導きが必要です。時々失敗することもある。失敗しても聖霊の導きで素晴らしい実を結ぶこともある。

楽しみにしてください。これからの札幌教区の将来は、素晴らしい共同体になる。これから、すごいことになる。希望を持ってください。新しい司教様、何時、誰が任命されるか。楽しみにして、任命されるまで祈りましょう。任命された方と一緒に共同体として歩みましょう。楽しみにしてください。

ともに讃えよう!! 侍者会から

去る9月30日、ときおり冷たい雨が降るなか、札幌地区の9小教区から34名の子どもたちが藤学園に集まりました。明日の使徒職大会のミサでの典礼奉仕にむけ、一泊二日の侍者会のスタートです。今年は特に、指導司祭のエムリク神父の提案で、子どもたち同士が互いに話し合い、分かち合いながら侍者の心構えを深める時間を取り入れました。初め緊張していた子どもたちも、時間が経つにつれ、あちこちのグループから笑い声があがり盛り上がりました。その後、役割分担を決め大講堂でリハーサルを兼ねて繰り返し全体練習を行いました。

会場を宿泊場所の北11条教会に移し、夕食、十字架の制作、リクレーションなど和気あいあいのうち

にあつという間に時間は過ぎ、就寝、消灯。

一夜明けて、雲一つない快晴の空のもと藤学園に出発しました。

スタッフとして参加するたび、ミサに与りながらいつも感じるのは、「子どもたちは教会の希望・宝」ということ。今回も改めてその思いを深めた侍者会でした。

最後に、心のこもった豚汁と朝食を準備してくれました北11条教会マリア会の皆様にお礼申し上げます。ありがとうございました。

養成委員会・常任委員会 上野 浩



大聖堂を造ろう

札幌教区助祭 森田 健児

ヨーロッパの美しい大聖堂

最近はやりの世界遺産の写真集を見ていると、あまりにすばらしい教会堂や修道院の建築に、ため息が出ます。「なんてすばらしいんだろう、祈りや信仰心がこんなすばらしい形になるとは。今では無理だ。」

教会史の授業で聞いたところによると、昔のベネディクト会の修道士たちは、人の住まない僻地に行って山を切り開き、レンガを重ね、70年もかけて修道院を造ったとか。およそ人の一生分かかっているわけです。「なるほど、お金はかけなくても人手と時間をかければあんなにすばらしいものができるのか」と思いました。しかしそれも、一生を無欲に生き、信仰と労働のみに生き、家族を持たない修道士がいてこそ可能なもの、気の遠くなる話です。

聖人たちの心こそ大聖堂

キリストに捧げられた聖堂、聖母に捧げられた聖堂、パウロに捧げられた聖堂、いろいろあります。キリストや聖母、そして聖人たちの教えと生涯に深く感じた人々が、お金を惜しまず出して壮麗な聖堂を建てる。だから聖堂より前に財力あり、財力より前に信仰あり、信仰より前に聖なる教えと生涯があるのだ、と思いました。実に聖人たちの心に建てられた壮大な大聖堂こそ、目に見える大聖堂の原因だったのではないのでしょうか。

キリストの体こそ神殿

キリストはおっしゃいます。「この神殿を壊してみよ、私は三日で建て直す」(ヨハネ2:19)。キリストはご自分の体のことを言ったのでした。キリストの内には神の本性が宿っているので、神の臨在するその身体こそまことの神殿でした

同様に、パウロは言います。「知らないのですか。あなた方の体は聖霊の宿る神の神殿であることを」(Ⅰコリ3:16)。神である聖霊が私たちの体に宿るなら、私たちは確かに神殿です。一人一人が神の神殿であり、侵してはならない聖域であるということです。真理の光がいつも満ち、祈りの香が揺れ、正しい行い、徳が一つひとつレンガのように積み重ねられ、堅忍と忍耐が漆喰となって汚れが入り込むのを防ぎ、自らを省み、いつも掃除が行き届いているように心が清められています。定時には祈りが捧げられ、神への賛美と感謝

の歌声が響いています。悪に対して戸は閉じられるが、人々に対してはいつも開かれている。

祈りの神殿にするためにむちを振るうイエス

イエスはあるとき神殿でむちを振るわれました。「私の神殿は祈りの家であるべきだ、と言われている。なのにあなたがたは強盗の巣にしてしまった」(マタイ21:13)。なぜこれほど厳しいのでしょうか。キリストは私たちの心が物質を求め、快楽を求め、贅沢にふけることを厭われます。心こそ祈りの場、心こそ神を求める場、そして神を信じる人の心こそ聖霊の場、なのにあなた方の心に満ちているものは世俗のものばかりなのか。これは聖堂ではなくて公民館だ、神殿ではなくて商売の家だ、私はあなた方の心に神が住まうことをどれほど願っているかを知らせるために、むちを振るう。

私たちの心の小聖堂

私たちの心に小さな聖堂が造られ、毎日熱心な祈りが捧げられるなら、そして賛美の歌が捧げられるなら、また神のみ言葉がごだまし、それが思い巡らされるなら、それは生きている神殿に違いありません。祈りが愛の行いとなって結実し、親切や柔和、ゆるしや喜び、平和や誠実さとなって一つひとつのレンガとなって積み重ねられるなら、私たちの聖堂は壮麗な美しいものとなってゆくに違いありません。そうならば、今のわたしたちの教会が小さなものであろうと多少不便なものであろうと、大して心配することはないのではないのでしょうか。私たちの心こそまことの神殿であり、そういう人の集まりこそまことの教会です。目に見える教会が立派であらうと、心がレジャーランドと化しているなら、それは空洞化した教会です。ヨーロッパの教会はすばらしいが、しかし残念なことに信仰は低下し、若者は離れ、大聖堂には人が少なく、巨大化した聖堂の維持管理に財政は苦しいのではないのでしょうか。形だけの教会が信者を圧迫しているのです。

私たちの心に小さな祈りの聖堂を建ててゆきたいものです。そして一生かかってレンガをひとつずつ積み重ね大聖堂にしてゆきましょう。私たちの心が本物の教会、本物の聖堂となるなら、きっと将来目に見えるすてきな聖堂が建てられるに違いありません。

…カトリック真駒内教会をご紹介します…

- 歴史 献堂式は1963年（昭和38年）11月3日です。今年で43年目になります。
- 主任司祭 谷内 武雄神父様
- 信徒数約 成人609人（94％） 20歳未満42人（6％）
計651人 2005/12末現在
- 南ブロック（山鼻、北広島、恵庭、千歳）の一員です。
- 保護の聖人は「聖マリアの汚れなきみ心」
- 真駒内教会の住所 〒005-0012 南区真駒内上町4丁目8-1
電話 011-581-4362 FAX 011-581-4364
- 隣接して「真駒内聖母幼稚園」があります。
- 交通機関
 - * 地下鉄（南北線終点）真駒内駅下車、徒歩約15分
 - * 中央バス（澄川―真駒内・福住―真駒内）上町5丁目下車、徒歩約10分
 - * 西11丁目駅より定鉄バス真駒内線（南4） 光塩短大前下車
 - * 定山溪方面からは定鉄バスの交通機関があります。

- ★ 求道者の勉強会は金曜日のミサ後・第三日曜日のミサ後・偶数月合同ミサ後などに勉強しています。
- ★ 日曜学校 神父様は遠足、その他の行事に参加して下さいます。神父様のお話は年2〜3回です。子どもたちと一緒に過ごす時間が少なく、子ども好きの神父様にとっては物足りないのではないのでしょうか。聖書・ご聖体の勉強は教育部が担当しています。

「追記」 浅沼神父様は、ご降誕に谷内神父様と一緒にミサを捧げられました。「嬉しいな、嬉しいな」と喜ばれていたことが心に残っています。2005年12月の第一日曜日までミサを司式なさっていました。その後、体調をくずされパウロ病院に入院されました。2006年4月21日からは月形の「藤の園」に転所され、現在はお元気に過ごされています。



マリア会遠足 2006/8/29



早春のカトリック真駒内教会

I. 特徴

主任司祭の谷内神父様は山鼻教会の主任司祭をも兼務しています。通常は山鼻教会におられます。教会の管理は信徒が交代で行っています。祝日は3月から閉鎖しています。

ミサ及び集会祭儀は以下のとおりです

主 日	時 間	ミサ・集会祭儀
第一日曜日	9:00 10:30 山鼻教会	ミサ
第二日曜日	10:00	集会祭儀
第三日曜日	10:00	ミサ
第四日曜日	偶数月は真駒内教会 10:00 奇数月は山鼻教会 10:30	合同ミサ
第五日曜日	9:00 10:30 山鼻教会	ミサ

- ★ 平日のミサは * 火曜日18時30分 * 金曜日10時から捧げられます。ご降誕、聖週間、ご復活は真駒内・山鼻典礼部の合同部会にて決めています。
- ★ ご降誕のミサは真駒内教会で20時から捧げられました。その夜神父様は、宿泊されて次の日もミサを捧げられて山鼻教会へお帰りになりました。
- ★ ご復活は午前が山鼻教会、午後は真駒内教会でミサでした。赦しの秘跡は、大祝日前も神父様が個別に対応して下さいます。
- ★ 第一と第三金曜日は、ミサ後「聖書勉強会」が開かれます。その後、神父様を囲み昼食を摂っています。午後は総務部と病人訪問にも行かれます。金曜日、真駒内教会のために時間を割いてくださることを嬉しく思います。

II. 取り組んでいる課題

1. 規約改正委員会

2005年9月に委員7名で組成されました。「教会とは何か」「私たちは何を目的に、何をするために教会に集まるのか」を原点に据え、市内他教会の規約、教会運営についての話を伺い、各種レポート・論文を勉強しています。現在まで、2003年使徒職大会森司教の講演録、京都司教「共同宣教司牧を推進するために」、大阪教区「みんなで担う信徒奉仕職」を読み意見交換を行っています。市内教会の訪問時には、ご協力いただきたく宜しく願致します。今後は改正案を作成し、全信徒と分かち合う予定です。

2. 教会内部改修委員会

長年の懸案事項であり、信徒の要望が強かった以下の5項目を目的に2006年2月に委員9名で組成されました。
1) 車椅子トイレの新設 2) 洗面所の新設（葬儀関係等宿泊者の洗面設備なし） 3) 男女トイレの改修 4) 台所の改修及び移設 5) 屋根の一部改修
手をつければつけるほど、いろいろな問題が顕現すると考えています。緊急必要性を勘案しながら対応していく予定です。

3. 各部のマニュアルを作成中です。2006年中には成案予定です。

4. 教会のブロック制を教会活動に活かす。



合同ミサ

Ⅲ. 真駒内教会内での信徒の活動

<執行機関は>

* 会長、副会長、各部の長、会計監査

信徒会長 ヨゼフ会、マリア会会長は副会長

ヨゼフ会 マリア会 専任副会長

総務部 典礼部 広報部 財政部 教育部 営繕部 会計監査

- * マリア会・ヨゼフ会例会は第一日曜日に開催しています。
- * 役員会例会は第一日曜日、マリア会・ヨゼフ会終了後開催。3ヶ月毎、主任司祭に臨席いただいています。その時は第三日曜日に開催しています。

◆ 真駒内教会は
信徒会、マリア会、ヨゼフ会で活動をしています。青年会が平成16年度まであったのですが、現在は休止状態であることが残念です。中高生は朗読奉仕、バザー、敬老のお祝い、カフェ・サマリアなどで活躍しています。

<葬儀>は、平成17年度から地区を4分割(A・B・C・Dブロック)して奉仕しています。18年度から、ブロック制を掃除当番にいかし、男性も参加することになりました。

掃除は土曜日に行い、次の日お茶の接待も兼ねて担当します。

◆ 教会の管理
総務部が担当となり、信徒が施錠・解錠・日直を交代で行っています。

宣教の第一歩、地域・社会に開かれた教会の見地に立ち実施しています。

2006年3月から、祝日のみ閉鎖しています。

◆ カフェ・サマリア
概ね月1回開店しています。山鼻教会の方との親睦を兼ね、基本的に、合同ミサの時には開店するように

しています。季節に合ったメニューや手打ち蕎麦もあります。ミサ後、皆さんで食事することはとても楽しく話も弾むひと時です。毎回、おいしいと評判です。

収益は、草の実会・青十字サマリア館・緊急災害地・その他へ、カフェ・サマリアの喜びを添えて献金させていただきます。

- ◆ 「み言葉の分かち合い」
2005年2月から月1~2回、ミサまたは集会祭儀後実施しています。一年間で10回実施し、延べ人数で76人が参加しました。教会で行っているため、行事と重なり定例化できないことが悩みです。多くの方と福音の喜びを共有したいと考えています。
- ◆ バザー
年に一度のバザーは札幌カリタス、カリタスジャパン、イースタービレッジ・ミンダナオ、セブ島への支援を中心に、難病連、チェルノブイリのかげはし、北広島天使の園ともかわりをもっています。
また各人が持ち寄った本を年1~2回「釜が崎」へ送付しています。
- ◆ その他
その他に、手芸部があります。教会内のほかに、家庭でも作品作りに励まれています。

Ⅳ. 真駒内教会外での信徒の活動

- ◆ 「虹の会」で3人が活躍しています。1人は点字訳の奉仕をしています。また、「子どもの絵本の会」の点字訳をしている方もいます。
- ◆ その他、札幌地区カトリック女性の会「環」、ボランティアネットワーク、正義と平和委員会、「札幌マックを支える会」支援、東札幌病院ボランティア、ハンセン病の会「北海道はまなすの里」などで活動をしています。

Ⅴ. 札幌地区ブロック制の目的と真駒内教会との関連

1. 司祭、信徒の話し合いの場をつくる。
神父様に、定期総会と3ヶ月に一度、役員会に臨席いただいています。その他に、司祭の判断が必要な事柄については、随時相談しながら推進しています。
2. 主任司祭協力司祭が互いに補完すること。
2006年1月まで浅沼神父様が協力司祭でした。現在、協力司祭はおりません。
3. 集会祭儀の機会が多くなることへの対応
集会祭儀は、現在月一回第二日曜日に行われています。担当者は6名です。今後に向けて増員予定です。
4. ブロック内での合同役員会の開催
南ブロック会議は、2005年4月に北広島教会に於いて開かれました。その結果、距離的に遠いので更に二分して北広島、恵庭、千歳と真駒内、山鼻で交流しましょうということになりました。2006年のブロック会議は、開かれる予定は立っていません。
5. ブロック内での聖書・要理の研究に司祭を有機的に活用。
いまだこの域には至っていません。
6. 教会内での奉仕に小教区を越えた協力。
山鼻教会とは合同ミサの時、時おり共同祈願で奉仕しています。また日曜学校のキャンプ、スケートなどは誘い合って交流の場を設けています。

(文責: 三室 横川 2006/08/31現在)

「付言」
内部改修のうち、(1)~(4)は、9月22日に晴れて完成しました。新しく、美しくなった台所とトイレは明るく、使いやすくなり、皆、たいへん喜んでます。ぜひ一度、お越しください。
(田中)



そば打ち前のお祈り



「要理担当者養成講座」プレ講座 開催

去る11月3日、北26条教会において「要理担当者養成講座」プレ講座が開催されました。司祭、修道者、養成委員会メンバー、そして主任司祭の推薦により各小教区からの信徒、合わせて70名ほどの参加者が集いました。

「信仰とは何か」「伝える」こととは・・・をテーマに、講師のSr.木村 晶子先生（藤女子大学人間生活学部人間生活学科助教授）の講話をお聴きし、質疑応答があり、午後の後半はグループに分かれて話し合いを持ちました。

このプレ講座は来年度に開講予定の「要理担当者養成講座」の準備として、講座の雰囲気体験、小教区要理担当者への動機づけを目的に開催されたものです。



Sr.木村 晶子先生

各小教区における求道者への要理指導は、主に主任司祭が行なってきましたが、司祭の少数化など現在の状況ではその対応に困難が予想され、ますます信徒の奉仕が求められます。そこで、数名の信徒がグループで求道者と共に歩みつつ、それぞれの人の中にあるものを分かち合いながら進める奉仕者の養成が必要になってきました。

開催にあたって、養成委員会から「教会を訪れる方に対して、今日は司祭がいないから、また来てもらう」のではなく、宣教に召されている私たち信徒ひとり一人が信仰の語り部になり、キリストを熱く語り、伝えて行くことを希望します」と

の挨拶がありました。

参加者は「要理担当」という言葉に多少の不安はあるものの、キリストの心を生きる者として、永遠のいのち、永遠に過ぎ去ることのない愛である真理について、それぞれの救いの体験をもって伝えて行くことを確認できたと思います。

「要理指導する」ということよりも、人々の苦しみや悲しみに耳を傾け、かわり合う。ひとり人間として大切にされず、闇と孤独に苦しむこの世の中で、私たち一人ひとりが、かけがえのない存在として愛されていることを伝えていく。そこに恵みが注がれ、喜びと感謝のうちに、お互いのために祈り合うことへつながっていくのではないかと思います。

この養成講座が「司祭の少数化」というマイナスのなきっかけではなく、キリストと共に生きる私たちの、内側から溢れ出てくる思いと使命によって、一人ではなく数名が集まり、主と共に小さなことから始められればと希望を感じました。



グループでの、わかち合い

編集後記

「ともに」の編集スタッフが変わりました。S、K両氏には長い間編集を担当していただき、ご苦労さまでした。新スタッフ3名は素人同然で、早くも悪戦苦闘しておりますが、素人なりの視点で宣司評の活動や地区の動きなど伝えていきたいと考えています。皆さんに支えられ、愛される広報誌を目指して参りますので、よろしくお願いします。

(K、N)